

## 研究結果

上海自然科学研究所は、日本政府が1923年3月に制定公布した「対支文化事業特別会計法」に基づいて実施されていた対中国文化事業——「東方文化事業」（または「対支文化事業」と称す）の重要な一環として、1931年4月から1945年9月にかけて中国において設立・運営管理されていた自然科学に関する研究機関である。この研究分野が自然科学の分野をほぼトータルにカバーする総合科学研究機関の設立目的は、「自然科学の純粋学理を研究するを以て目的」とし、また中国人の「高遠なる自然科学研究の能力を増進することに注意し、以てシナの自然科学の発達を図る」ことに主眼にしている。設立当初、研究員が40名、内訳は日本人33名、中国人7名であった。

1928年に起きた済南事件及び蒋介石の国民政府樹立により、この日中共同事業は事実上、日本の単独事業と化してしまっただのである。こうした逆境の中、京都帝国大学第八代目総長を務めていた新城新蔵（1873－1983）が研究所長に就任した。新城は戦前日本における天文学・宇宙物理学の権威の1人であり、中国学に造詣が深かった。研究所長の着任早々、新城は研究所の知名度アップのため、また中国学界・文化界との交流・提携をはかるべく、精力的に指導活動を行った。「学術講演会」及び「学術談話会」の開催、そして機関誌『自然』の刊行等様々な努力により、それまでは日本の対中国文化事業に一貫して反対の姿勢をとってきた中国科学社をはじめとする中国側のアカデミズム団体に変化が現れた。研究所の研究者がこれらの団体・組織の正式メンバーとして認められたのみならず、当時としては珍しく学術年會に招かれ、研究成果の報告を要請されることさえあった。上海自然科学研究所はその「黄金期」に入った。

しかし、1937年日中戦争勃発後、研究所はその管轄先が外務省から興亜院そして大東亜省へと移っていくと共に、その性格が日本の国策機関と化した。1945年8月の日本降伏により、研究所の全歴史を閉じた。

## 研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

（1）「新城新蔵と上海自然科学研究所」・李 嘉冬・第十回兩岸三地歴史学大学院生論文発表会・2009年9月19日・上海大学宝山キャンパス楽平新楼

（2）「上海自然科学研究所の一考察」・李 嘉冬・立命館経済学部セミナー・2010年1月25日・立命館びわこ草津キャンパス・アドセミナリオ棟

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

「上海自然科学研究所『自然』解題・総目次（1935年6月～1944年11月）」、李 嘉冬、『立命館経済学』第58号第2号、2009年7月

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）